

熊本県立宇土高等学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標
熊本県教育委員会の「令和3年度(2021年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「令和3年度(2021年度)人権教育取組の方向」等を中心に据えながら、本校建学の精神である「質実剛健」のもと101年の伝統を継承しつつ、中高一貫教育校として新たな発展と創造をめざす。 全職員は教育者としての自覚と使命感、教育的愛情と人権感覚を持ち、資質と指導力の向上に努め、生徒一人ひとりの個性を伸ばしながら、知・徳・体の調和が取れ、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、たくましく生きる力を備えた将来のリーダーとなる青年の育成に努める。 中高一貫教育校としての利点を生かし、効果的な教育のあり方を研究するとともに、地域との連携をより一層深め、地域に開かれた特色ある学校づくりに努める。

2 本年度の目標
①全職員が資質と指導力の向上及び授業改善に努め、生徒一人一人を理解しその個性を伸ばしながら、知・徳・体の調和が取れ、自ら学び考え行動する、逞しく生きる力を備えた将来のリーダーを育成する。 ②中高一貫の6年間及び高校3年間教育課程研究を推進し、宇土校ならではの教育活動を展開する。 ③地域の小中学校等との連携をより一層深め学校の見える化を図り地域に開かれた学校づくりに努める。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	自己評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	業務改善	生徒一人一人と向き合う時間確保の工夫	校務の精選と業務時間の見直し	・校内連絡システムを活用し、会議を削減 ・1人1業務削減を実施	B	・校内連絡システム活用は、諸会議の削減、時間短縮になっている。 ・コロナ対応業務増もあり、業務削減は課題。生徒と向き合う時間の確保をより意識して取り組む。
		生徒一人一人の実践的な思考力を養成するUTO-LOGICの推進	ICTを活用した探究の問いから始まる学びサイクルの確立	・ICTを活用した授業実践と参観を相互に実施 ・遠隔授業を想定し、全教科全領域でICTを活用した授業づくりを推進	A	・ICT活用の授業実践が各教科で充実し、相互参観がよい研修となった。 ・分散登校で全職員がICTを活用した授業を展開しており、生徒の学びサイクルを確立した。
	働き方改革	風通しの良い職場環境づくり	教職員の意識改革と業務の平準化	・教職員と面談や働き方等の情報提供を行い意識改革を図る。 ・衛生委員会・運営委員会を定期的に開催し、業務の精選や平準化について検討	A	・各分掌部内での業務分担の確認、コミュニケーションを図りつつ、効率的な業務の遂行へのひとりひとりの意識をより高めることが課題。 ・衛生委員会で毎月職員の健康状態、業務負担状況を確認し、指導・助言や産業医面談を行った。
		教職員の健康増進及び福祉の確保	部活動の計画的な運営と積極的な年休取得	・年休が取得しやすいよう、定期的な呼びかけ ・毎月の長時間勤務者に対するアンケート及び面談の実施	A	・長期休暇等に呼びかけをしたり、取得日数が少ない職員に対しては個別に休暇取得を促した。平均は、昨年度と同等の11日であった。 ・長時間勤務者が固定しており、業務の平準化が課題である。
学力向上		全ての生徒が意欲的に参加する授業が実践できているか	授業の満足度90%以上	・授業時数の確保 ・研究授業の開発 ・探究型授業の推進 ・授業評価の充実	A	オンライン授業や探究型授業の推進は図れており、生徒の満足度は高い。次年度からの観点別評価への対応が課題である。
		・課題の質と量は適切か ・宅習時間が確保できているか	・課題の質と量の満足度80%以上 ・目標宅習時間の確保(高1・2年＝週1000分 高3＝週1500分)	・学習状況調査の充実 ・宅習時間調査の分析 ・行事の精選と考査前の学習時間の確保	B	生徒の家庭学習時間については、目標に届いていない。授業内容と課題の精選、さらに次年度の新教育課程・観点別評価を見通した自学力の育成プランを検討する必要がある。

キャリア教育 (進路指導)	自己の発見とキャリアの基礎構築	自己の強み発見	自身の個性・強みを考えた目標設定度90%以上	・進路希望調査 ・年3回以上の面談の実施 ・部会等での情報交換	B	1年生は文理コース分けのガイダンスを行った。進路希望調査や模試の結果を分析し、学年会で学力検討会を行い情報を交換した。
		将来を見通したキャリア構想	職業を見据えた進路目標の設定度90%以上	・オープンキャンパスへの参加 ・インターンシップ ・卒業生による合格体験談	B	今年度はWebオープンキャンパスや進学説明会に積極的に参加するように推奨し、振り返りシートに記録を残した。
	一人一人の進路目標の達成	進路意識の向上	学年・時期に応じたLHRの進路研究の充実、適切な進路情報提供	・進路ニュース、進路の手引き等の情報の発信 ・進路講話、ガイダンス ・大学の出前講座 ・進路資料室の利用促進	B	1年生は各自の進路希望に添った大学・専門学校調べを実施し、希望者を対象に、夢ナビライブ講義の動画視聴を行った。九州工業大学や鹿児島大学の説明会を本校の教室や「Zoom」を使用したオンラインで実施した。
		個に応じた指導の充実	教師の教科指導力および進路指導力の向上	・Nステ・ゼミ・進取会の実践、模試の分析 ・進路検討会の充実、業者の研修会・入試分析会参加 ・入試問題研究	B	進路検討会は参考資料やICTを活用して、より充実したものとなった。必要な入試情報や資料は随時提供し、推薦入試では、小論文や面接指導を全職員で分担して取り組むことができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	服装・あいさつ・時間厳守の徹底	全職員による生徒指導と生徒に寄り添った配慮ある対応の実践度80%以上	・遅刻月3回以上者指導 ・学年集会時の整容検査と事後指導の徹底 ・生活委員会によるあいさつ運動	B	遅刻月3回以上は2年生に1名で指導した。服装検査は学年で温度差がないよう部会で統一し学年集会やクラス単位で実施し、事後指導まで徹底した。挨拶運動は1回実施した。
		交通ルールへの遵守とマナーの向上	交通ルール遵守率80%以上、交通事故等1%以内	・職員、交通委員会の定期的な交通指導 ・啓発用のチラシの作成と掲示	B	交通関係は事故2件、自転車通学生への苦情3件と少なくなかった。その他の苦情が増加傾向にある、今後も引き続き指導する必要がある。
	自主性や社会性及び公共性を身につける	生徒会中心の行事の運営	生徒会主催の行事の企画・運営の充実、アンケートによる満足度90%以上	・コロナ過の中で開催できる体育祭、クラスマッチ、文化祭の見直しと、より一層の充実	A	コロナ過の中で、体育祭は平日開催、文化祭は2日間の午後開催と生徒会を中心に試行錯誤しながら無事開催することができた。クラスマッチも同様である。
		各種委員会活動の活性化	目標の明確化、生徒自ら行動する委員会活動の実践、達成度80%以上	・生徒会執行部の主体による各種委員会の開催 ・各種委員会の主体的な活動による活性化	B	体育祭や文化祭の日程変更や内容変更など各行事における生徒会や委員会活動は充実はしたが、年間継続が不十分な委員会もあった。
人権教育の推進	命を大切にする心を育む指導	生徒の自尊感情の向上 他者に配慮した行動の実践	人権教育LHRの充実	人権教育実践委員会および各学年会での、入念な企画・検討。生徒の意見等の集約とフィードバック	B	各学年で意見交換をしながらクラスでのLHRが実施できた。生徒の意見のフィードバック等により、さらに生徒の自尊感情が高まるように工夫したい。
	人権教育の基本的認識と実践力の強化	職員研修の改善・充実	「部落差別の解消の推進に関する法律」等の全職員への徹底、およびレポート研の実施	職員研修実施し、職員の人権問題への基本的認識と法律・条例に関する理解と定着を図る。	A	本年度は、動画の閲覧・レポート研・資料の閲覧と実践交流等を、校務支援システム上で行い、負担軽減にはつながった。さらに「部落問題認識」と「実践力」が進むよう、工夫・改善したい。

特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への的確な対応	生徒の特性に合わせた支援	・生徒理解を踏まえた適切な支援の実践 ・個別的教育支援計画及び指導計画を基にした支援の充実 ・不登校傾向の生徒への支援とカウンセラー室の効果的な活用	・全職員の共通理解を図り、環境整備に努める。 ・関係者と協力・連携を図り、サポート会議やケース会議を開催し、組織的な支援を進める。 ・外部講師による職員の研修を実施	A	・特別支援学校より先生をお招きして職員研修を行い、支援を要する生徒への支援のあり方について理解を深めた。別室登校に関しては、一時期教室が満席の状態になることもあり、運用等を含め検討していく。
		ストレス反応を示す生徒への支援	・SCとの定期的な面談の実施 ・関係機関との連携	・学校や寮、家庭などの生活環境に起因するストレス反応を示す生徒をSCやSSWになぎ、ストレスの対処法を学ばせる。	A	・高校へ入学したという環境の変化もあり1年生の利用が多かった。ストレス対処の講話をおこない、ストレスとの向き合い方を学ぶことができた。上級生は前年度からの継続がほとんどであり、定期的な面談が実施された。継続者が多く、また新規での希望もあるため時間の確保が課題である。
いじめの防止等	生徒会「いじめ防止委員会」の活性化	生徒会「いじめ防止委員会」を中心に、いじめを無くす意識付けができたか	生徒会「いじめ防止委員会」におけるアンケートと啓発活動の実施	タブレットを使用した「学校生活に関するアンケート」と、いじめ防止通信(仮称)の実施	B	「学校生活に関するアンケート」は、実施できなかったが、「いじめ防止啓発作文の取組」は進んだ。次年度に「朝読書読み物」として、全校生徒に発表する予定である。
	職員のいじめや生徒への対応に関するスキルアップ	いじめの未然防止と早期対応が適切にできたか	いじめ等のトラブルの減少、生徒教職員間の良好なコミュニケーションの構築	スクールカウンセラーによる職員研修等の実施	A	2回のアンケートで数件の「いじめ」が報告されているが、各職員・学年・校務分掌等で迅速に対処し、大事には至っていない。しかし、次年度には「いじめ」に関する教職員のスタンスや対処・コミュニケーションに関する学びの機会を設定したい。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	情報発信	地域への丁寧な情報発信	HP・ブログの改善による配信の充実	・欲しい情報が容易にわかるよう工夫されたレイアウト ・特に本校志望の生徒の増加につながるHPのデザインに配慮	B	ホームページの刷新に取り組んだ。改修時期が遅くなったが、レイアウトなどの工夫がされたものになった。今後も改修を重ね、充実させる。今後他のSNS発信も整備し、情報発信を続け、志望生徒の増加につなげる。
	コミュニティ・スクール	学校運営協議会(総合型)の実働	運営協議会(総合型)を実働させながら、学校課題を焦点化させる。	・地域と連携することで、どうしたら学校課題の解決を図ることができるか協議する。 ・ICTを活用した簡便で機動的なアンケート集約体制構築	B	・新型コロナウイルスの流行により、紙面による協議となった。地域への情報発信、地域防犯防災対策、働き方改革等貴重なご意見をいただいた。 ・保護者への連絡やアンケート等に関して、ICTの活用は、今後も進めていく。
図書館活動	読書活動の活性化	利用しやすい図書館作り	図書館からの情報発信の充実及び「朝読書」の満足度向上	・デジタルツールでの情報の発信及び収集 ・職員向け情報提供 ・「朝読書」に関するアンケート調査実施	A	デジタルツールでの広報誌も定期的に発信した。確実に見てもらえるよう担任の先生方にも呼びかけていただく。「朝読書」アンケートを年度末に実施する。
			図書委員会活動の充実	・広報誌『らいぶらりいたいむず』の定期的発行や、図書館特別展示コーナーの設置	A	図書委員による広報誌の定期的発行や、図書館内の「コーナー展示」も毎月行うことができ、書架の整備もできるようになった。

SSH	第二期実践型、研究開発課題「未知なるものに挑むUTO-LOGICで切り拓く探究活動の実践」の中間評価において、指摘を受けた事項の改善・対応	UTO-LOGICを備えた人材育成の評価方法を開発する。	生徒対象にL・O・G・I・C5観点を問う学校独自問題「ロジック・アセスメント」の開発	G Suiteを活用し、CBT形式による実施でフィードバック及び評価検証の円滑化を図る。また、AI Grow活用によるコンピテンシー評価を試行	B	成果はルーブリック及びチェックリスト開発。2年SSコース対象にAI Growによるコンピテンシー評価試行。課題は評価の生徒へのフィードバック等、活用方法。アセスメントは一部、今年度試行問題を実施する。
			探究活動のガイダンス機能及び情報共有の機会の充実	ロジックガイドブック及びGS本によるガイダンスとGoogle Classroomによる探究に関する情報共有を充実	A	成果はSSコース対象にロジックガイドブック第二版、GSコース対象にGS本2021を発刊したこと。課題はGoogle classroomでの情報共有の徹底と定着度のばらつきである。
		探究活動及び探究の「問い」を創る授業の実践の見える化”可視化”教科の枠を越えた授業の開発	探究活動の過程における職員・生徒の関わりの可視化と職員の変容の調査方法の開発	G Suiteを活用し、Googleドライブによる探究活動の過程の共有・情報交換を充実、探究の過程の可視化を図る。職員の変容を可視化する調査を実施	B	成果はGoogle共有ドライブでの探究活動の過程を可視化による教員の探究指導に関わる頻度が増加。課題は職員の変容を質的評価する方法の開発である。
			探究の「問い」を創る授業、教科の枠を越える授業の実践を共有する機会を設定する。	公開授業(探究の「問い」を創る授業)及び職員研修(探究活動の指導方法)を実施し、コンピテンシーベースの授業デザインの展開を図る。	A	成果は探究の「問い」を創る授業の実践報告を3月に実施し、取組の発信、共有を図ったこと。課題は、探究の「問い」の活用方法が担当や授業にとどまり全体共有に至っていないことである。
中高一貫教育	本校独自の中高一貫教育プログラムの開発と実践	中高接続を踏まえたカリキュラム・マネジメントの実施	新学習指導要領による教育課程を編成する。	教育課程検討委員会で具体的な取組を行う。	B	高校で令和4年度から実施される学習指導要領を踏まえた研修を中高合同で実施し、評価法等の検討を行った。
		中高連携した学校行事・生徒会活動の充実	学校の新しい生活様式を踏まえた中での活動の充実	・生徒会を中心とした行事の工夫と実践 ・保護者(PTA)と一体となった行事の工夫	B	コロナ禍で創意と工夫を重ね、体育祭や100周年記念式典、文化祭を同時配信等も行い、充実した内容で実施することができた。

4 学校関係者評価

コロナ禍により評価委員会を書面開催としたため、以下に委員の意見を記載する

- 「おおむね達成」の評価が多かったので、嬉しく拝見しました。
- 「交通ルールの遵守とマナーの向上」については、加害者・被害者のどちらにもならぬように、中学・高校の生徒さん及び保護者への意識啓発をよろしく願いたいと思いました。
- 昨年度に比べて、教職員の学校経営についての評価が高くなっていることに安心しました。部活動も大切な生徒さんの活動です。教職員が心身ともに自己管理を大切にして、休暇をうまく取得しながら「できる人だけに任せる」という業務にならないことを願っています。
- 各項目において、おおむね良好と思われます。ただし、評価が3に達していない項目については、特に対応策を考える必要があると思われます。
- コロナ禍の下でも的確で安全安心の経営をされておられ、学ばせていただきました。
- 地域に開かれた学校づくりについて、ホームページのリニューアルなど、積極的な情報発信がされています。
- 挨拶運動の実施や交通ルール遵守の啓発・指導による効果が現れており、このことが今後益々地域に愛される学校となることにつながると考えます。

5 総合評価

自己評価については、4段階評価で全職員で行い平均値が3.0以上の場合評価をAとしている。全項目の平均値が3.0であり概ね目標を達成できていると捉えている。

特に「ICTを活用した探究的な学びのサイクルの確立」に関する評価は前年度に比べポイントが大きく伸びており、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために実施した分散登校時のハイブリッド型の授業への対応が教員のICT活用スキルの向上につながったと考える。生徒会が中心となって企画や運営を行った体育祭や文化祭は日程や内容の変更を伴いながらも開催することができ、YouTubeを活用した同時配信も実施できた。

「教職員の意識改革と業務の平準化」についても前年度の評価はBであったが、今年度は評価がAとなっており、業務の平準化が進むことで、各教員が生徒に関わる時間の増加につながることにつながったと考える。

6 次年度への課題・改善方策

総合評価においてICT活用の増加を今年度の評価として挙げたが、一人一台端末の全校生徒への導入や校内のネット環境の充実により、ICTを活用した新たな学びの形の模索を今後より一層深める必要がある。

特に本校においては、中高一貫校の特色を最大限に生かすために、中1から高3まで教科科目別の「教材データベース」を設けるなど、学び直しや先取り学習に資するICT活用教材の検討を進める必要がある。

また、「新学習指導要領による教育課程の編成」についての評価が前年度のAからBに下がっているが、今年度は「観点別評価」に関する職員研修を充実させ、教科会でも十分に検討を重ねたことで、各教科で新たな課題が確認されたことに起因すると捉えており、次年度に向けての準備は着実に進んでいる。